

令和5年度学校経営方針

1 理想の児童像

「笑顔で登校し、満ち足りた気持ちで家路につく子供」

- ・「学び大好き・みんな大好き・自分大好き」に満ちあふれた学校にする。
- ・子供のもって生まれた長所を見出し、子供自身に気付かせ、自尊感情を育てる。
- ・子供の可能性を伸ばすために、他との関わりや体験を重視する豊かな学びを構築する。

- ・校歌の歌詞「大きな手と小さな手がしっかりとにぎりあう」「教える手と教わる手が力をあわせ合う」のように子供同士、子供と教職員がしっかりと手を握り、力を合わせていく。
- ・人と人とがふれあい、信頼し合い、高め合うことができる学校経営を目指す。

2 目指す学校像

「豊かな学びと人と人とのふれあいのある学校」

- (1) 常に、子供の立場に立った教育活動や施設設備のあり方を考える学校
- (2) 教職員や友達と学び合い、高め合うことが楽しいと思える学校
- (3) 様々な学習や体験活動を通して人とふれあう中で、子供たちの成長を促す学校

3 教育目標

「よく考え、つくり出す子」＝学び大好き
「みんなとともにのびる子」＝みんな大好き
「たくましく生きる子」＝自分大好き

4 経営の重点

(1) 子供を深く理解する。

- 一人一人の子供に目をかけ、手をかけ、言葉かけを大切にする。
- 子供が聞いてもらいたいタイミングを大切にする。

(2) よくわかる授業をする。

- 授業の中で、「できた喜び」「学ぶ楽しさ」を体験させる。
- 教えることと考えさせることのポイントを押さえた授業を行う。
- 学習した内容を習得させるとともに、学習の仕方を身に付けさせることも重要視する。
- 高学年においては、教科担任制を導入し、専門性を生かした授業を実践する。

(3) 校内研究で授業力を高める。

- 校内研究では社会科・生活科を柱として研究を深め、主体的・対話的で深い学びやユニバーサルデザインを念頭に置き、授業の改善に努める。
- 全員による研究授業を行い、教師が自らが研修を積み重ね、指導技術を高め、授業力の向上を図る。

(4) 思いやりのある子供を育てる。

- 教師が子供の話をよく聞き、良さを認めることで、子供たちにも友達のよさがわかる目を養う。
- 自分と友達を互いに認め合い、共に生きる心を育てる。

(5) 生活指導を充実する。

- 基本的な生活習慣の育成に努め、あいさつやお礼などを素直に言える子供を育てる。
- 欠点ばかりを指摘せず、良い点を見付け、ほめて、励まして伸ばしていく。

(6) 家庭・地域との連携を充実する。

- 生活リズムや家庭学習習慣を身に付けさせるために、保護者との連絡を密にとる。
- 地域・保護者・学校が連携を深め、子供たちの健全育成に努め、子供をたくさんの手で育てる。

(7) 安心・安全な環境をつくる。

- 毎月の安全点検を確実にし、校舎内外の施設・設備を安全に保つ。
- 地震、風水害、火災、不審者侵入、校内での事故に備えて、避難訓練や救助法の訓練を行う。
- アレルギーや健康上留意することのある子供については、保護者や養護教諭、栄養士と十分に連絡を取り合い、事故を防ぐ。

5 その他の配慮事項

- 教育公務員としての自覚をもち、服務規律を厳守する。
- 個人情報や会計の管理、適切な指導を心がけて職務にあたる。
- 体罰や不適切な行為は、法的に許されない犯罪行為であることを念頭に置き、指導にあたる。
- 教育活動は互いの信頼の上でしか成り立たない。子供の声、保護者の声、地域の声を大切にする。
- 子供の事件・事故はすぐに、学年主任・主幹教諭・副校長・校長に報告し、速やかに保護者に連絡する。
- 特に首から上のけがは、必ず保護者へ連絡する。場合によっては、病院に連れて行く。
- 保護者へのお知らせや連絡を常に徹底し、大切なことは文書で行う。
- いじめ、不登校、虐待等は、「いつでも・どこでも」起こりうると考え、未然防止を徹底する。
問題発生時には学年主任・主幹教諭・副校長・校長に相談し、組織で対応する。
- 自己申告書と面接を通して、職務の遂行と指導力の向上をめざす。
- 計画的な教育活動を行う。（週案の提出100% 自分を守る手段にもなる）
- 働き方を見直し、「早く、簡単に、正確に、誰でも」できるようにする。
- 指導力や専門性の向上をめざすことで、働く時間を減らし、仕事の充実感を高めるようにする。

6 今年度のキャッチフレーズ

「学び大好き・みんな大好き・自分大好き 篠四の子供」

篠四小の子なら

- し 親切な心で人と接する
- の 伸びるために努力する
- ざ 雑草のようにたくましく生活する
- き 気持ちの良い挨拶をする

篠四小の教職員なら

- し 真剣に子供と向き合う
- の 伸び伸びとした教育活動を行う
- ざ 雑草の见えない部分を意識する
- き 気配りを忘れずに人と接する

※チーム「篠四」として教職員が一丸となって、様々な課題に対し、組織的に対応していく。

※ベクトルの方向性がずれそうになった場合～すべては子供たちのために～を判断の基準とする。